

■平成28年度事業計画

初めての青少年関係法ができて5年を経過し、プランの見直しが行われ、この2月に新しい大綱が示されました。青少年の自然体験活動の推進に関する答申においても、体験活動の補完の必要性や指導者としてのユースワーカーの養成などが示されています。「組織キャンプの可能性と持つ力」はこれら青少年課題に大きな役割が期待されています。日本キャンプ協会も50周年を迎え、この様な社会問題に対して、キャンプはどんな貢献が可能なのか、社会はキャンプに何を求めているのか、私たちの先達たちが築き上げられた資産を振り返り、次の時代への在り方に向かって取り組んでいこうとしています。

大阪府キャンプ協会では、会員相互がさらに関わり合いを深め、それぞれの資質を高め合いながら、社会に貢献できる具体的なアクションプランを提案していけるようになればと考えています。そのために、会員への情報発信の強化を進め、若い指導者間の交流を促進し、また日本キャンプ協会や近隣各県協会との事業協力など、ネットワークの強化にも取り組んでいきます。

I 事業

1. 指導者養成事業及び会員事業

キャンプ指導者の養成及び資質向上のための研修機会を提供し、会員の相互連携と研鑽の機会を提供します。専門委員会の機能を再検討し、ブレイン集団としての役割構築を目指します。

- ① キャンプ指導者講習会（兼キャンプインストラクター資格取得講習会）
認定講習会の開催については、受講ニーズに応じて検討し、キャンプ指導者の資質向上に資する取組として、テーマ別の学習や体験の機会を提供できるよう考えていきます。
- ② CD塾（2015年度は、ほぼ毎月〈第3火曜 計9回〉実施）
2015年度は、塾生同士の情報交換と、講師を招いての勉強会とをほぼ半分ずつ開催した。今後は、様々な施設・団体の人同志がつながり、刺激を受けられる場として、門戸を広げて講師・塾生を募り、具体的な経験の共有や社会への貢献を考えていける場にしていきたい。
- ③ リスクマネジメントセミナーin 関西 【BUC認定事業】
2016年 12月4日（日） ドーンセンター テーマ：こどものこころとからだ
- ④ 関西野外活動ミーティング 【BUC認定事業】
2017年 2月26日（日） ドーンセンター
- ⑤ 会員のためのフォローアップ
会員サービスについての検討 催し物情報の提供を強化する。
「会員証」の廃止（日本協会の会員カードに一元化し、事務機能の軽減・経費節減を図る）

2. 情報収集と提供及び調査研究事業

キャンプ活動に関する情報を会員及び広く社会に提供すると共に、キャンプに関する調査研究をすすめます。

① 広報誌『きゃんぷOSAKA』の発行（年3回 2000部）

キャンプ協会の活性化のためにも、会報の内容を充実させる。具体的な発行目的を再構築し、必要な情報や伝えたい情報を企画検討し、年4回から3回に減らすことにより、内容の濃いものを作る。発送経費の高騰に対応し、一部日本キャンプ協会の郵便物に同封することで、経費節減を図る。（発行時期検討中 別紙参照）

② キャンプに関する調査研究

③ キャンプサロン「小西孝彦さんに学ぶ」

④ SNSの活用（facebookの運用を推進する 他）

3. 相談と指導

キャンプに関する相談・指導等を行ない、キャンプ活動の支援に取り組めます。

① キャンピングの指導・相談

② 講師の紹介・派遣（年数回程度あり）

③ キャンプ用品（テント）の貸し出し（吉野宮滝野外学校で保管）など

4. 連携事業の実施

キャンプ関係機関・団体が実施する事業と連携し、キャンプ活動の推進を図ります。

① 関係機関・団体との連携協調事業

② 各種事業の後援・協力

5. 日本キャンプ協会との連携事業

日本キャンプ協会の加盟協会として、会員事務をはじめ、日本協会が実施する指導者養成事業等各種事業とも連携し、キャンプ活動の積極的な展開に努めます。

2016年度日本キャンプ協会の50周年事業に協力し連携をすすめます。

① 会員・指導者の事務手続き

② 連携協調事業 指導者養成講習会

③ 第6回アジア・オセアニア・キャンプ大会への会員派遣

④ CAMPING AWARD2016の推薦

6. その他キャンプ活動展開に必要な事業

II 会議

協会運営に必要な各種会議を開催し、協会の円滑な運営を図ります。

① 総会・キャンプサロン「小西孝彦さんに学ぶ」（再掲）

2016年 6月5日（日） 長居ユースホステル

- ② 役員会（理事会・常任理事会）
- ③ 専門委員会（必要に応じて随時開催）

■平成 28 年度 収支予算

（単位：千円）

一般会計

収入の部		支出の部	
会費収入	2,280	事業費	1,350
事業収入	600	管理費	1,811
雑収入	11	その他支出	0
その他収入	200	予備費	0
当期収入合計	3,091	当期支出合計	3,161
前期繰越収支差額	843	当期収支差額	△70
収入合計	3,934	次期繰越収支差額	773

特別積立金会計

収入の部		支出の部	
繰入金収入	0	繰入金支出	200
諸収入	1		
当期収入合計	1	当期支出合計	200
前期繰越収支差額	3,420	当期収支差額	△199
収入合計	3,421	次期繰越収支差額	3,221